

自然と友だちになろう!! わくわく自然探検隊



ご飯作り うまく炊けたかな?

去る11月9日(日)、御調八幡宮キャンプ場にて、(社)三原青年会議所地球市民ジュニア育成委員会(笠下裕司委員長)は、自然と友だちになろうをテーマに、「わくわく自然体験隊」を行いました。

当日は天候にも恵まれ、56名の隊員達(小学生)は、自然と触れ合うゲーム(ネイチャーゲーム)や竹筒で炊くご飯作りにチャレンジしました。

みんなで知恵を出し合い、力を合わせて作ったご飯の味は、一生忘れることはないと思います。

(社)三原青年会議所は、これからも『地球市民ジュニア』の育成をめざし活動してまいります。

最後に、ご協力いただいた関係各位に本紙を借りて厚くお礼申し上げます。



竹の食器作り



木の実を使ったオブジェ作り



「きずき・発見」発表会



ネイチャーゲーム(フィールドビンゴ)

やっさもっさ 広告協賛のお願い

本紙「やっさもっさ」は、(社)三原青年会議所がまちづくり運動の一環として、本紙掲載企業の皆様からの広告協賛と、(社)三原青年会議所の自主財源によって発行しており、現在1月から年11回、三原市・瀬戸田町及び本郷町内の約32,000戸に新聞折り込みしております。私たちは

来年度も本年度以上に、市民の皆様に愛され親しまれる紙面作りに邁進してまいります。

何卒、三原市及び近郊の各企業の方々のご協力をお願い申し上げます。詳しくは下記の青年会議所事務局までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ
〒723 三原市皆実町1331-1
三原商工会議所内
(社)三原青年会議所
TEL (0848) 63-3515
FAX (0848) 62-1141
締切り
11月30日まで

編集後記

- ・一年間ご愛読いただいた市民の皆様
- ・広告協賛をしていただいた皆様
- ・ちょっと一言にキチョウなご意見をいただいた方々
- ・モニターにご協力いただいた方々
- ・様々なご意見や励ましのお言葉をかけていただいた市民の皆様や先輩方
- ・毎月何度も夜おそくまで、編集につきあってくれたメンバー

本当にありがとうございました。
おかげをもちまして本年度も11回の「やっさもっさ」を無事発行することができました。紙面を借りまして厚くお礼申し上げます。

来年もスタッフを新たに「やっさもっさ」を発行してまいりますと共に、(社)三原青年会議所会員一同「明るい豊かなまちづくり」に取り組んでまいります。今後もよろしくお願い致します。

1997年度(社)三原青年会議所

- | | | | |
|--------|-------|-------|--|
| 理事長 | 松野 諭 | | |
| 担当副理事長 | 大東 弘典 | | |
| 広報委員長 | 小林 浩 | | |
| 副委員長 | 松浦 弘路 | | |
| 委員 | 赤谷 真一 | 安達 義博 | |
| | 上本 政夫 | 勝村 祥治 | |
| | 熊田 聡 | 古跡 博美 | |
| | 伊達 護 | 平野 裕輔 | |

やっさもっさ モニター大募集!!

“やっさもっさ”では来年もモニターを募集いたします。私たち(社)三原青年会議所は市民の皆さまとのコミュニケーションを図り、愛され、親しまれる広報紙を目指しています。アンケートにお答えするご意見、ご感想をお寄せいただくモニターの方を募集いたします。

モニター期間
1998年1月号~11月号まで
申込み先
〒723 三原市皆実町1331-1
三原商工会議所内
(社)三原青年会議所 広報委員会宛
TEL (0848) 63-3515
FAX (0848) 62-1141

(社)三原青年会議所 新入会員募集

(社)三原青年会議所は現在、三原市及び近隣町村の40歳までの青年約80名(内、女性会員4名)で組織されています。そして、次代を担う青年としての指導力の開発や、「明るい豊かな社会」を構築するための社会開発運動に積極的に取り組んでいます。ぜひ、私たちと一緒に「明るい豊かなまち三原」を目指して活動してみませんか。

- 入会資格
- ・年齢25~35歳(原則として)
 - ・三原市内及び近隣町村に在住、または勤務されている方。
 - ・性別は問いません。
- 入会方法
- ・まず規定の入会申込書と会員2名

の推薦書を提出していただきます。説明会・面接の後、4月~6月例会の間、仮入会員として青年会議所活動に参加していただき、入会の意志を確認の上、7月に正式入会となります。

応募締切
・1998年3月19日(木)
詳しくは(社)三原青年会議所事務局までお問い合わせください。
〒723 三原市皆実町1331-1
三原商工会議所内
(社)三原青年会議所
会員拡大研修委員会宛
TEL (0848) 63-3515
FAX (0848) 62-1141

みんなで使おう市民のセンター サン・シープラザ 三原市総合福祉健康センター 開設記念イベント

花束(ブーケ)で飾ろう 市民のプラザ

一心に架かれ優しさの橋

子どもからお年寄りまでの世代間の交流を目的として、プラザに来場された市民ひとり一人に、ユリ・ポピー・ストックの中から好きなリボンフラワーを選んでいただき、一輪の花を造って楽しんでいただきました。そして皆さんの心ひとつひとつが集まって約200本もの花が集まり、三原フラワーデザインスクールの桑田講師のアレンジで、とても美しい花束(ブーケ)となりました。

また、このイベントには、今年度(社)三原青年会議所「ひとに優しいまちづくり委員会」(藤井寛也委員長)が行なったひとり暮らしの老人の会の方々へのアンケート調査や、三原の高齢者福祉を調査・研究する上で知り会った多くの方々、また、やっさもっさなどを通じて来ていただいた方々等、30名以上のボランティアの参加をいただきました。

皆さんリボンフラワーを造るのは初めての方が多く、さる10月25日(土)講習会を行ない、11月2日のイベント時のインストラクターとして活躍いただきました。

世代や立場を超えた交流の中で生まれた美しい花束(ブーケ)です。

これから先、サン・シープラザに来場された人々を暖かく見守ってくださいますので、是非、見に来て下さい。そして、これから先、サン・シープラザを市民の施設として活用していこうではありませんか。

▶ 皆さんの心が集まって、大きなブーケができました。



サン・シープラザ4Fに展示中

(社)三原青年会議所では、11月1日より開設されたサン・シープラザ(総合福祉健康センター)の開設記念事業として開催された三原市健康まつりに協賛して、11月2日(日)、2つのイベントを開催いたしました。

うらしま太郎 高齢者疑似体験プログラム

三原市は全国平均よりかなり早いペースで、4人に1人が65歳以上の、超高齢社会に突入しようとしています。そこで(社)三原青年会議所では、高齢者疑似体験を企画してみました。これは、(社)長寿社会文化協会開発の高齢者疑似体験セットを装着して、80歳代の体の機能になり、サン・シープラザの施設を利用したり、新聞を読んだり、ジュースを飲むなどお年寄りの日常生活の一部を体験してもらうものです。

体験者の方々からは「お年寄りの気持ちがわかったような気がする」「体の自由がきかないのがどれだけつらいかわかった」「全身が重くなり、心まで暗くなる様な感じがする」など、多くの感想をいただきました。

年を重ねるという事は、自分の将来の事です。三原が今後ひとに優しいまちとして発展していく上で、今度開催されたサン・シープラザを活用した高齢者福祉システムの充実が急がれるとともに、年を重ねるという事を自分の事としてとらえ「お互いさま・助け合いましょう」の互助精神が市民の間にもっともっと広まってゆく事が大切ではないでしょうか。

我々(社)三原青年会議所は、これからも三原がひとに優しいまちとして発展してゆくよう、市民の皆様と共に考え、活動してゆきたいと思ひます。



これはこうやるのヨ



▶ 装着風景



これでいいのよネエ



新聞も読みにくいワ



▶ ペットボトルをあけるのも大変



▶ もっとのければ大きい口が



若い人はじょうずじゃネエ



▶ わあ、きれい

なかなかのできですワ



10月例会

“わくわくりサイクル” これであなたも リサイクラー!!

(社)三原青年会議所、環境に優しいまちづくり委員会(佐藤恵美子委員長)

では、「環境問題は、まず足元から...」との考えから、地域に根差した活動をされている「こぶの会」代表の桑田真弓さんを講師にお招きし、活動を通しての体験談を交えながら講演して頂きました。

当日は、リサイクルで未来クル憩談会メンバーの皆様にも来場頂き、(社)三原青年会議所の環境問題に対する今までの活動の検証と「リサイ

クルで未来クル憩談会」で主催した「虹色リサイクルフェスタ」開催までの経緯をスライド・ビデオ等で上映しました。その後、桑田真弓さんの講演を通して「環境に優しいまちづくり」に対する今後の取り組みについて“私たちの住んでいるまちのことは私たちで.....”と身近なところから考えた例会となりました。

